



第2回 HZ 研究会

頭頸部の帯状疱疹に伴う 合併症の 早期診断と治療

この記録集は、2010年1月30日に開催した第2回HZ研究会(帯状疱疹に関する抗ヘルペスウイルス療法研究会)での発表内容および討議内容をまとめたものです。

帯状疱疹は、帯状疱疹後神経痛以外にも様々な合併症や後遺症を起こしますが、その頻度は比較的低いため、見逃されたり対応が遅れることがあります。症例紹介では過去の症例を収集しているため、これまで広く使用されてきたアシクロビル製剤のデータが用いられています。あくまで、多診療科にまたがったフォローが必要な帯状疱疹に伴う合併症の早期予測・診断のために提供された情報であり、特定の薬剤の有効性や安全性に問題があることを訴えているわけではありません。



当番世話人

本田 まりこ 先生
東京慈恵会医科大学附属青戸病院 皮膚科 教授

岩月 啓氏 先生
岡山大学医学部 皮膚科学分野 教授



はじめに

帯状疱疹は、皮膚科だけの疾患ではありません。病因となるウイルスは全身の神経節に潜伏感染し、再活性化したウイルスは顔部、体幹、四肢に皮疹を発症させるだけでなく、全身臓器にも影響を及ぼします。また、様々な合併症や後遺症を起こすことから、多科にまたがってフォローアップする必要があります。治療は抗ヘルペスウイルス薬の投与が基本となりますが、腎機能や全身状態に配慮し、投与量や投与期間を決める必要があります。

2008年、日本の帯状疱疹治療に新たな選択肢としてファムシクロビルが加わりました。そこで私達は、帯状疱疹治療における抗ヘルペスウイルス療法をより有効かつ安全に行うことを目的として、「帯状疱疹に関する抗ヘルペスウイルス療法研究会(HZ研究会)」を発足させ、2009年に第1回目の研究会を開催しました。第1回は、腎機能低下患者における抗ヘルペスウイルス療法の課題と対策をテーマとし、薬剤の腎毒性や用法・用量の調節などについて討論しました。

第2回目の今回は、頭頸部の帯状疱疹に伴う合併症の早期診断と治療をテーマに掲げ、皮膚科のみならず、病理学、耳鼻咽喉科、眼科、神経内科のエキスパートにもご参加いただきました。それぞれのお立場からの活発な討論をお願いしたいと思います。

本田まりこ



出席者

川島 眞 先生
東京女子医科大学 皮膚科学 教授

本田 まりこ先生
東京慈恵会医科大学附属青戸病院 皮膚科 教授

岩月 啓氏先生
岡山大学医学部 皮膚科学分野 教授

浅田 秀夫先生
奈良県立医科大学 皮膚科学 教授

安元慎一郎先生
久留米大学医学部 皮膚科学 准教授

下村 嘉一先生
近畿大学医学部堺病院 病院長、近畿大学医学部 眼科学 教授

村上 信五先生
名古屋市立大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授

綾部 光芳先生
久留米大学医学部 内科学
(呼吸器・神経・膠原病内科部門) 准教授

古田 康 先生
手稲溪仁会病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長

羽藤 直人先生
愛媛大学医学部 耳鼻咽喉科学 准教授

氏平 伸子先生
名古屋掖済会病院 病理診断科 部長

松尾 明子先生
川崎医科大学 皮膚科学 助教

藤井 瑞恵先生
旭川医科大学 皮膚科学

岩崎 琢也先生
東京女子医科大学 非常勤講師

白濱 茂穂先生
聖隷三方原病院 皮膚科 部長

渡邊 大輔先生
愛知医科大学 皮膚科学 教授

今福 信一先生
福岡大学医学部 皮膚科学 准教授

川村 龍吉先生
山梨大学医学部 皮膚科学 講師

松尾 光馬先生
東京慈恵会医科大学 皮膚科学 講師

小野 文武先生
久留米大学医学部 皮膚科学 助教

尾上 智彦先生
東京慈恵会医科大学 皮膚科学

伊東 秀記先生
立川皮膚科クリニック 院長
東京慈恵会医科大学 皮膚科学 非常勤講師

(順不同)

HZ 研究会概要

研究会名 帯状疱疹に関する抗ヘルペスウイルス療法研究会(HZ研究会)

目的 帯状疱疹治療における抗ヘルペスウイルス療法の有効性及び安全性の向上

世話人 川島 眞 先生 東京女子医科大学 皮膚科学 教授
本田 まりこ 先生 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 皮膚科 教授
岩月 啓氏 先生 岡山大学医学部 皮膚科学分野 教授
浅田 秀夫 先生 奈良県立医科大学 皮膚科学 教授
安元慎一郎先生 久留米大学医学部 皮膚科学 准教授 (順不同)

主催 マルホ株式会社
〒531-0071 大阪市北区中津1-5-22

事務局 株式会社マッキャンヘルスケアワールドワイドジャパン
〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-16 アクア堂島西館